

本日の為替見通し

ポイント

ギリシャ債務交換協議と第2次支援策の実施に向けた協議はいよいよ大詰め・・・今日中に決定する必要があるとされている。

パパデモス・ギリシャ首相と主要党首との話し合いは本日実施され、昨日作成された合意文章の草案で、すんなり通るのか？ ギリシャ政府とトイカの協議で財政赤字削減に向け合意ができるのか？ ギリシャ首相と、ダララ IIF 専務理事との協議は終了し、ダララ氏は「建設的な協議」だったと言い、投資家や債権者と協議を続けるためにパリへ向かった。

すんなり決まれば、本日中にギリシャ閣議で承認され、明日9日にはユーロ圏財務相会合が開催され、承認される可能性が高くなるが・・・。

昨日、クルース欧州委員会の副委員長は、ギリシャがユーロ圏から離脱しても通貨ユーロの崩壊はなく、大きな問題にならないという。FT紙では、「ギリシャが一方向的に債務返済を停止する無秩序なデフォルトや、ユーロ圏離脱が万が一に生じた場合に備えた準備を、EU内で検討されていることをうかがわせている」との記事もあった。前日には、パパデモス・ギリシャ首相が、ギリシャがデフォルトになった場合の影響について報告書の作成を財務省に指示していた。

最近EUR高やAUD高の傾向は強く、リスク資産の上昇もあり、ドルインデックスは1月13日の高値81.784→2月7日78.49まで下げ、昨年12月9日の水準になっている。1月13日にはFOMCの議事録(12月分)が発表され、参加者の多くが追加緩和が正当化されると示唆、1月25日のFOMCでFF金利誘導目標の予想値公表することを公にした日でもある。

EURUSDは1月16日の底値1.2620台から上昇を開始した記念すべき日でもあり、1月16日は、米雇用統計の発表があり、失業率は8.7%→8.5%に低下、非農業部門雇用者数は予想15.5万人→20万人に大幅に改善した日でもある。

となると？ EURUSD高への反転や、ドル安への反転は、米国の発の要因で流れが変化することになる。市場はユーロ圏に釘付けになっている内に、市場の変動要因は、米国発の要因に変わっていたのであり、1月25日のFOMCで超金利政策の終了時期を延長したことで、ドル安が決定的になったとも考えられる。

とは言え、短期勝負では話は別・・・ 今日ギリシャと関係機関との協議での合意の有無と、その内容は重要で、明日9日には、もしかしたら、ユーロ圏財務相会合が開かれ、ギリシャ問題が解決する可能性も否定できないし、イングランド銀行と欧州中銀の政策金利の発表があり追加緩和策の実施の可能性も否定できず、非常に変動リスクが高くなることは避けられない。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25日指数移動平均線は1.3055、この線を下限に上場トレンドが続いている。DOPup=1.3425、DOPdn=1.2768。スロー・ストキャスティックは%K=74.45、%D=73.22、売りから買い変化し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。

EURJPY(日足) = 25日指数移動平均線は103.36、この線を下限に上昇してし、下降トレンドラインの上値を超えている。DOPup=102.74、DOPdn=97.72。スロー・ストキャスティックは%K=60.40、%D=53.83、買いへ変化し、ベースはニュートラルゾーン。

USDJPY(日足) = 25日指数移動平均線は76.87、終値ベースではこの線を上限に上げ度まっている。DOPup=77.66、DOPdn=75.38。スロー・ストキャスティックは%K=32.09、%D=225.73で、買いに変化し、ベースは売られ過ぎゾーン。

本日のCFD見直し

ポイント

オバマ大統領がイランの政府及び金融機関の米管理下にある資産の凍結命令書に署名したことで、イランの軍事行動の可能性も気になり、米週間石油在庫統計も最近では変動リスクが大きく気になる。一方、ギリシャ債務交換協議と第2次支援へ向けた最終的な動きもあり、昨日はリスクオンの流れとなっていたが、合意の有無と結果によって相場の流れが大きく変わってくる。そして、明日のECBとBOEの政策金利の発表も控えており、市場なECBに対しては金利引き下げの可能性は完全に排除しておらず、BOEに対しては資産買入枠の拡大を予想するなど、状況からは金融緩和=リスク資産の買いに動きやすい。

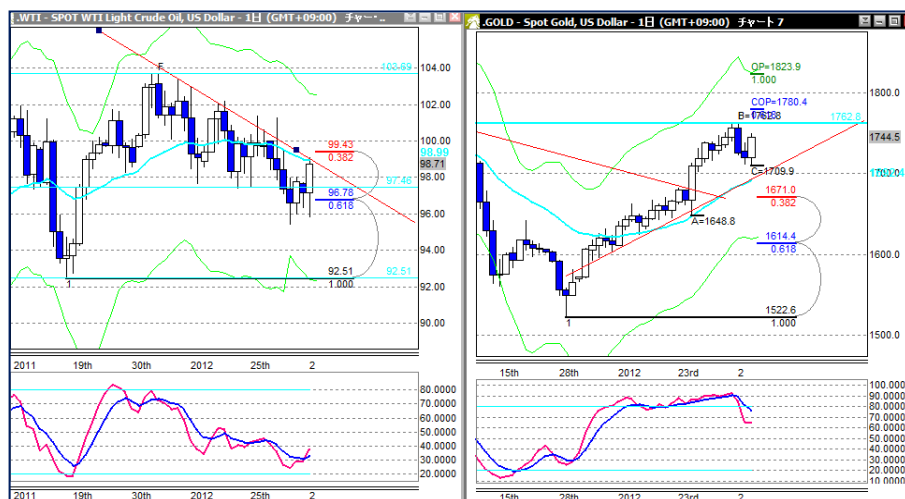
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは98.99で、終値ベースではこの水準を上限にして上げ止まっているが、日中ベースでは一時これを上回っている。また、下降トレンドラインの上限に位置し、ストキャスティクスも買いへの変化が見られ、終値ベースで98.99を超えてくると再び上昇トレンドに変化する可能性が出てくる。上値のポイントは99.43、102.61、下値のポイントは、96.78、92.51。

◎Spot.Gold

EMAは1692.44で、引き続きこの水準を下限にし、上昇トレンドの下限にも位置している。ストキャスティクスも売りへ変化し、終値ベースでこの水準を割り込むと売りの流れが加速する可能性が出ているが、リスクオンの流れに再び乗ることになれば、逆に上値を試す絶好の機会とも思われる。テクニカル面での売りに反して、ファンダメンタルズではギリシャ問題を取り巻く状況が改善すれば、上値のリスクが高くなる。上値のポイントは1762.8、1780.4、1823.9、下値のポイントは1671.0、1614.4。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 98.99、終値ベースでこの線を上限に上げ度まっている。DOPup=102.61、DOPdn=92.40。スロー・ストキャスティックは%K=38.36、%D=33.16で、買いへ変化し、ベースは売られ過ぎゾーン。
Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1692.44、この線を下限に上昇している。DOPup=1825.47、DOPdn=1618.39。スロー・ストキャスティックは%K=65.65、%D=75.85で、売りへ変化し、ベースは買われ過ぎゾーンで推移。

2月8日(水曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

- 19:15 ドイツ5年債入札
- 00:30 米週間石油在庫統計
- 00:40 ウィリアムズ米サンフランシスコ地区連銀総裁 講演
- 03:00 アメリカ10年債入札
- ギリシャ政府とトロイカの協議
- ギリシャ首相と主要党首との協議

注目の経済指標

特になし

2月8日(水曜) 本日の主な経済指標と発表予定

8:50	JPY 12月 国債収支:経常収支=予想 3401 億円 前回 1385 億円、貿易収支=予想 -1350 億円 前回 -5851 億円
9:01	GBP 1月 BRC 店頭価格指数=前年比予想 前回 1.7%
14:00	JPY 1月 景気ウ オッチャー調査:現状判断=予想 47.4 前回 47.0、先行き判断=予想 45.5 前回 44.4
15:45	CHF 1月 失業率=予想 3.5% 前回 3.3%、
16:00	GER 12月 経常収支=予想 152 億ユーロ 前回 143 億ユーロ、貿易収支=予想 144 億ユーロ 前回 162 億ユーロ
22:15	CAD 1月 住宅着工件数=前月比予想 19.15 万件 前回 20.02 万件

昨日(2月7日)の海外市場の動き

今日も、アジア市場は、ギリシャ政府と連立与党 3 党の党首協議の行方と、ギリシャ政府とトロイカとの協議の行方、その結果、ギリシャ債務交換協議、ギリシャ第 2 次支援への合意が実現するのか、その結果を待つ日となった。注目の、豪中銀は政策金利の据え置きを決定し AUDUSD は上昇へ、声明では欧州債務危機を危惧する度合いが弱まったとの判断も含まれ、EURUSD をショートにしている市場参加者はナーバスになっていた。欧州・米国市場では、ギリシャ政府が政府指導者会議に提示する第 2 次支援に向けた合意文章の草案を作成との報道から、EUR 高リスクオンの流れが始まり、ギリシャ首相とダラーラ IIF 専務理事の協議開始へ、ギリシャ首相と政党党首の協議開始へ、ギリシャ政府とトロイカの協議開始へと動き始め、EUR 買いとリスク資産買いの流れが続いた。

- ◎豪中銀は大方の市場予想に反し政策金利の据え置きを決定→ AUDUSD 急騰へ
- ◎外国為替平衡操作の実施状況→ 政府・日銀は 10 月 31 日の 8 兆 0722 億円に続き、11 月 1 日に 2826 億円、2 日に 2279 億円、3 日に 2028 億円、4 日に 3062 億円のドル買い・円売り介入を実施していたことを確認→ 覆面介入の継続懸念に円売りの流れになる
- ◎フィッチ、中国のハードランディングが 2012 年の世界経済にとって最大のリスク→ 中国景気回復を疑問視する発言が多くなる
- ◎ギリシャ債入札は順調に消化→ 落札利回りは前回は下回り、応札倍率もまずまずだが、EUR 買いは加速せず
- ◎独の鋳工業生産は非常に弱い→ EUR 売りは限定的
- ◎ジョルダン・スイス中銀総裁は EURCHF1.20 を死守→ 外貨を無制限に購入する準備に、EURCHF 上昇へ
- ◎カナダの住宅建設許可は非常に強い→ 4 年半ぶりの高値で USDCAD は下落へ
- ◎ギリシャ政府合意文章を作成→ 政府指導者会議に提示する第 2 次支援の受け入れ合意文章を準備→ EURUSD 上昇、ドル売りの流れ始まる
- ◎バーナンキ FRB 議長→ 欧州の危機が米経済に打撃を与える事態を防ぐ決議を表明
- ◎「ギリシャ首相とダラーラ IIF 専務理事の協議を開始」、「ギリシャ政府とトロイカの協議再開」、「パパデモス・ギリシャ首相は政党党首と協議し開始し(7 日から 8 日に延期)、8 日の閣議で承認を得る見込み」、「9 日のユーロ圏財務相会合が開かれる可能性」→ EURUSD の上昇が続く

USDJPY

朝方の 76.51 を安値に、外国為替平衡操作の実施状況で 10 月 31 日の大規模介入に続き、11 月 1 日～4 日にも継続してドル買い円売り介入を実施していたことを材料に、76.77 円まで上昇、3 日と 6 日の高値圏では上値は重く上げ止まり、大枠 76.65～75 のレンジで取引が続いた。欧州市場も、主役はギリシャ問題で大きな動きはなく、引き続き大枠で 76.65～75 のレンジでから、76.80 超えのストップを付け 76.85 台まで上昇した。米国市場は、76.70 割れを底値に、クロスで円売りが進み、ロンドンフィキシングへ向け 76.95 近くまで上昇、大枠 76.80～95 のレンジから終盤にかけて 96.72 まで値を下げている。

EURUSD

朝方の 1.3128 を高値に、上値の重い展開から 1.3107 まで緩やかに値を下げ、AUDUSD の急上昇に一時 1.3136 まで買われる局面もみられたが続き、1.31 を割り込み 1.3088 まで下落した。欧州市場は、中東勢の買いに 1.31→1.3150 のストップを試し 1.3167 まで急伸、ギリシャ債入札も利回りは低下したことで、上値トライが続いたが失敗、非常に弱い独鋳工業生産にもユーロ売りは鈍く、大枠 1.3120～60 のレンジから一時 1.31 割れまで値を下げた。米国市場に入り、USDCAD の売り+「ギリシャ政府が第 2 次支援の受け入れる合意文章を準備」との報道に 1.3180 台まで上昇、「ギリシャは 8 日の閣議で承認を得る見込み」、「9 日のユーロ圏財務相会合が開かれる可能性」に、米投資家の買いが続き、ロンドンフィキシングでは 1.3270 近くまで上昇、大枠 1.3235～65 の高値圏で取引が続いている。

AUDUSD

アジア市場は、豪中銀の政策金利の発表を控え、大枠 1.0700～1.0730 の狭いレンジで取引が続いたが、市場予想に反し、政策金利が据え置かれたことで、1.0705→前日の高値 1.0793 を超え 1.0810 近くまで急伸、1.0780～00 のレンジで取引が続いた。欧州市場に入ると、EURUSD の影響に 1.0820 台まで上昇したが、1.08 台では利食いの売りが強く、1.0780 割れまで下落、ドル買いの流れに 1.0760 台まで続落となった。米国市場に入り、USDCAD でドル売りが強まり、EURUSD の上昇に 1.08 台まで上昇、ロンドンフィキシングでは 1.0815 近くまで上昇したが、欧州市場の高値を超えられず、1.0780 まで値を下げ、大枠 1.0780～1.0805 のレンジで取引が続いている。

金・原油価格

◎米エネルギー情報局(EIA)、2012年の原油需要の増加幅を日量5万バレル上方修正し、前年比日量132万バレル ◎2013年は2万バレル上方修正し149万バレルと発表

◎香港の統計局のサンプル供給では、12月の香港から中国本土の金購入は季節的要因で需要が落ち込み38,839キロ、11月の記録的な水準102,779キロから大幅に減少した

◎オバマ大統領、イランの政府及び金融機関の米管理下にある資産の凍結命令書に署名→イランの出方が注目された

◎ナイジェリア武装勢力、ニジェール川デルタ地帯の石油施設へあらたな攻撃を予告、同グループはイタリアのENI子会社のパイプラインを攻撃した

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、開始直後から一時97.40まで上昇したが、前日の米国市場と同じく97.40超えの上値は重く、96.80近くまで下落、大枠96.70~90のレンジで取引が続いた。欧州市場は、一時97.28まで上昇したが、上値は重く、96.80まで下落、独鉱工業生産が非常に弱く、欧州の需要低下の思惑に、前日の安値96.36を割り込み95.80台まで下落した。米国市場に入り、「ギリシャ政府が第2次支援の受け入れる合意文章を準備」との報道に、リスクオンの流れとドル安の流れに、98.00の重要なポイントを上抜け99.08まで急伸、大枠98.30~90のレンジで取引が続いた。

◎Spot.Gold

アジア市場は、朝方の1718.5を安値に一時1723.8まで上昇、前日の欧州・米国の戻り高値1724台超えの売りは厚く、1720割れまで値を戻したが、アジア筋の買いに上昇が始まった。欧州市場は1730近くまで上昇したが、好調なギリシャ債入札に売りが強まり、一時1713近くまで急落、前日の安値1711台を割り込み1710まで下落した。米国市場に入り、「ギリシャ政府が第2次支援の受け入れる合意文章を準備」との報道に、リスクオンの流れとドル安の流れに、前日の高値1737を超え1740台まで上昇、大枠1735~40のもみ合いから、1750近くまで続伸、1745近くまで値を下げている。

昨日(2月7日)の主な発言・出来事

欧州関連
ギリシャ債入札=◎26週物8.125億ユーロ発行、利回りは4.86%(前回4.90%)、発行倍率2.72倍(前回2.80倍)
ハンガリー債入札=◎3カ月物550億フォロント発行、目標100億フォロント、利回り7.32%(1月31日7.41%)、
クーレ ECB 理事=◎世界の過剰な外貨準備で、IMFを通じて支払難に直面している国の救済に活用すべき ◎概算では新興市場国・地域は2.1兆ドルの米国債など、計6.5兆ドルの外貨準備を保有
メルケル独首相=◎金融市場は欧州共同債を歓迎するかもしれないが、債務危機の根本的な原因の一つとなる、国の見劣りする競争量を覆い隠すことになり、逆に繁栄を脅かす ◎ユーロ圏の財政統合は資金の移転統合にならない

ギリシャ関連
ユンケル・ユーログループ議長=◎ギリシャの債務返済用の特別勘定設定は検討に値する ◎ギリシャが第2次救済を受けるためには追加の財政緊縮措置の実施が必要という点でユーロ圏の首脳は一致している
クルース欧州委員会委員(オランダ・フォルクスラント紙)=◎ギリシャが退場したとしてもユーロ圏の大きな問題にならない ◎現時点ではユーロからドラクマへの転換は好ましくない
ギリシャ政府筋=◎ギリシャ政府は政府指導者会議に提示する第2次支援の受け入れ合意文章を準備し
ギリシャ首相府の報道官=◎パパデモス・ギリシャ首相は7日午後9時(日本時間8日午前4時)に始まる政党党首との協議が終わった時点で声明を発表→8日の閣議で承認を得る見込みで、9日のユーロ圏財務相会合が開かれる可能性がある、 ◎政党党首との協議は8日に延期となる
ユンケル・ユーログループ議長=◎2月9日より前にEU財務相会合を開く予定はない ◎全ての材料がそろわない限り開催することはできない
ギリシャ2大労組=◎24時間ストライキを実施
ショイブレ独財務相=◎ドイツ政府は1300億ユーロの第2次ギリシャ救済策の増額に反対
パパデモス・ギリシャ首相=◎党首との会談を8日に延期
パパデモス・ギリシャ首相=◎ダラーラ IIF 専務理事とアテネで午後6時半(日本時間8日午前1時半)に協議を開始
ギリシャ・タネア紙=◎トロイカから第2次救済の承認を得るには2012年に32億ユーロの歳出削減が必要 ◎いままでに25億ユーロの削減策で合意しており、追加7億ユーロを決定する必要がある
ギリシャ・カティメリニ紙=◎ギリシャ1月の歳入は前年同月比で7%減少、政府目標は8.9%増加
ギリシャ議会(アテネ通信社)=債務スワップの条件で12日に採決の可能性
ダラーラ IIF 専務理事=◎パパデモス首相やベニゼロス財務省と建設的な協議を行った ◎パリで投資家や債権者と協議を続ける

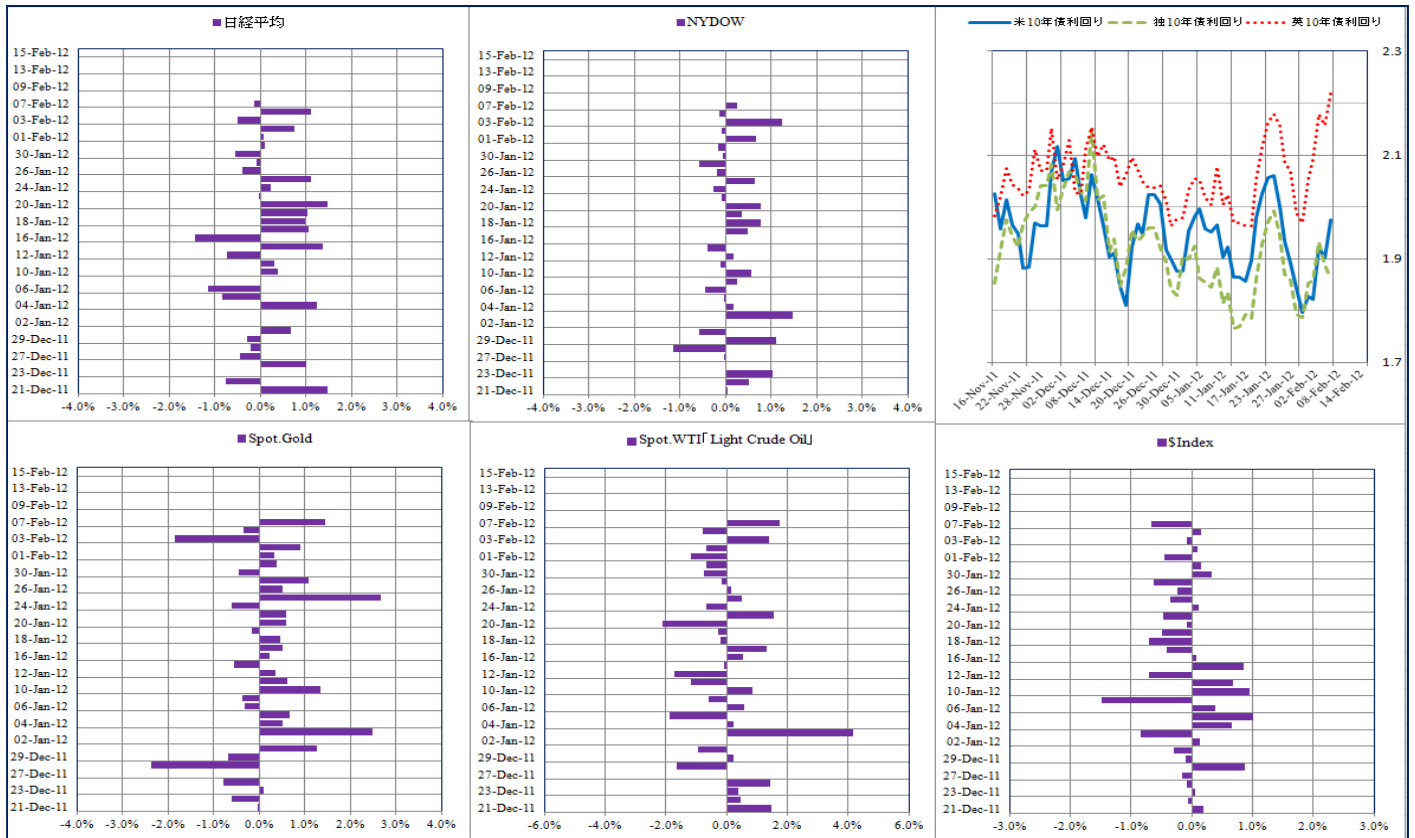
	バーナンキ FRB 議長(上院予算委員会の証言)
	◎欧州の危機が米経済に打撃を与える事態を防ぐ決議を表明 ◎欧州当局と頻繁に連絡をとり、情勢を注視し、米国の金融システムと経済を保護する可能なあらゆる手段を講じる ◎必行率 8.3%は労働市場の弱さを十分に表していない ◎雇用市場の正常化はかなり先 ◎失業率は穏やかに低下する可能性が高い ◎2013年1月1日期限切れとなる減税措置で議会が代替策を講じなければ景気回復が遅れる恐れ
	◎財政政策は大きな改革が必要 ◎市場は財政の進行過程に反応 ◎投資はは米国を危機からの避難地とみている ◎雇用拡大を目的にインフレをあおることはしない ◎米経済はさらに数年間にわたり回復 ◎住宅価格は横ばいしないし下落
	◎日本は労働力人口が減少し成長を押し下げている ◎日本のデフレは米国と対照的
	◎インフレ率は今後2年間に2%以下で推移へ ◎2013年に向けインフレ率は目標以下にとどまる可能性 ◎製造業の回復には勇気づけられている

AUD	豪中銀=◎成長がトレンドに近い水準で、インフレも目標付近の見込み ◎理事会は現在の政策が当面は適切と判断 ◎需要が大きく低下すれば、インフレ見通しが金融政策の緩和余地を提供 ◎今後2年間のインフレ率が2~3%を予想 ◎欧州の経済状況は昨年終盤に弱まり、リスクは依然として下向き ◎多くの予測はこれを反映し、今年の世界のGDPの伸びは基調ベースを下回る水準に下方修正された ◎最近の米国経済指標は、2011年半ば以降は緩やかな拡大が続く ◎労働市場はここ数カ月安定 ◎住宅価格は年末時点で安定化の兆し
CHF	ジョルダン・スイス中銀暫定総裁=◎EURCHF=1.20を死守する ◎必要に応じて一段の措置を講じる準備 ◎スイスフラン高を抑制するために外貨を無制限に購入する準備
CHN	中国工業情報省=◎中国経済は一段と不安定で不確実な要因に直面
CHN	フィッチ(WSJ紙)=◎中国のハードランディングが2012年の世界経済にとって最大のリスク
CHN	中国国債金融(CICC)=◎中国は年内に市中銀行の預金準備率を数回引き下げる必要がある
CHN	ムーディーズ=◎中国の不動産価格の下落は進んでいる
JPY	外国為替平衡操作の実施状況=◎政府・日銀は10月31日の8兆0722億円に続き、11月1日に2826億円、2日に2279億円、3日に2028億円、4日に3062億円のドル買い・円売り介入を実施していた
USD	WSJ紙=◎オバマ大統領は2013年予算教書で、10年間に3兆ドルの財政赤字の削減を求める

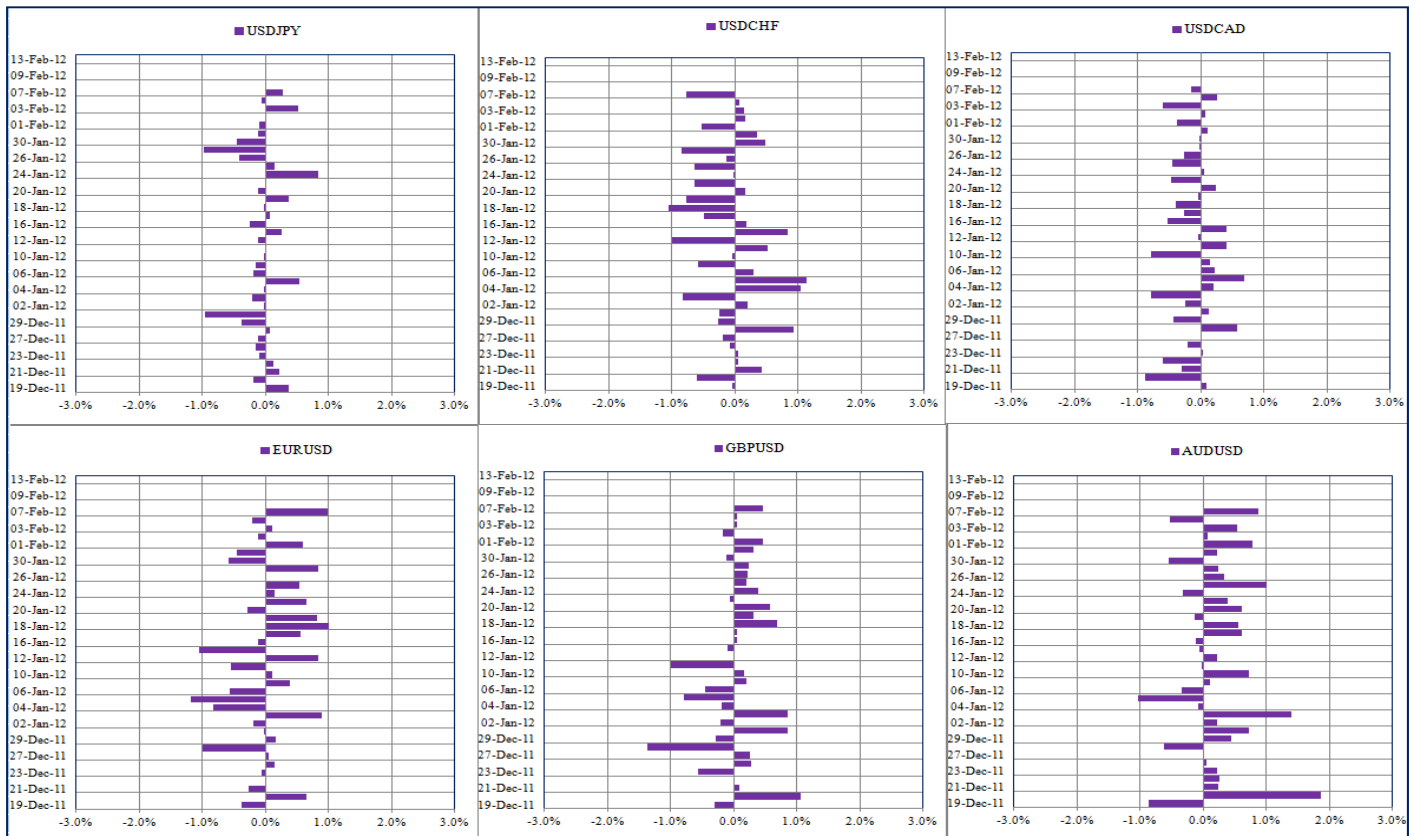
昨日(2月7日)の経済指標と結果

6:45	NZD 第4四半期 民間賃金=除所定外前期比0.7%(予想0.5% 前回0.5%)、含所定外前期比0.7%(予想0.5% 前回0.5%)、平均時給=前期比0.0%(予想0.5% 前回-0.1←-1.3%)
7:30	AUD 1月 AIG 建設業指数=39.8(予想 前回41.0)
8:50	JPY 1月 外貨準備高 1兆3067億ドル(前回1兆2958億ドル)
9:01	GBP 1月 BRC 既存店売上高=前年比-0.3%(予想-0.8% 前回2.2%)
12:30	AUD 豪中銀(RBA)政策金利発表=4.25%の政策金利の据え置きを決定、市場予想は0.25%引き下げ
14:00	JPY 12月 景気一致CI指数・速報=93.2(予想93.1 前回90.3)、景気先行CI指数・速報=94.3(予想93.8 前回93.7←93.2)
20:00	GER 12月 鋳工業生産=前月比-2.9%(予想0.0% 前回0.0←-0.6%)、前年比0.9%(予想4.1% 前回4.4←3.6%)
22:30	CAD 12月 住宅建設許可=前月比11.1%(予想1.0% 前回-2.6←-3.6%)
5:00	USD 12月 消費者信用残高=193.08億ドル(予想70億ドル 前回203.75←203.74億ドル)

日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011